

## 平成30年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	附属特別支援学校における研究の成果を全国へ発信する取組
事業実施代表者名	校長 紀藤 典夫
実施附属学校名	北海道教育大学附属特別支援学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>本年度、本校では「学習評価」及び「支援スケールの活用」に視点を当てた研究を行ってきた。3年次研究の3年目であり、授業実践に基づいた学習評価を効果的な支援のもとで進めていくための研究を行ってきた。</p> <p>ティーム・ティーチングで行う授業における指導・支援を指導者間で共有するために、学習活動案に支援スケールの検討内容を明記し、授業を行えるようにした。今後、特別支援学校の授業において、最適な支援を実現するためのツールとして有効なものを作成するため、評価の研究と合わせて実践を行った。</p> <p>12月に行った公開研究協議会では、各学部の授業をもとに、生活を豊かにするための学びが実現、という視点で研究協議を行った。また、「各教科等を合わせた指導における主体的・対話的で深い学びの具現化に向けて」をテーマに武富博文氏（教育政策研究会特別支援教育部会西日本支局長）による講演会を行った。</p> <p>これらの研究成果は、大阪市で行われた日本特殊教育学会（9月）においてポスター発表を行った。また、7月に函館で行われた北海道特別支援教育学会においては、自主シンポジウムにて、ふじのめ学級との共同での発表を行った。</p> <p>さらには、北海道教育委員会で行う「特別支援学校教育課程編成協議会」に参加し、他校との教育課程や授業の交流を行い、研究成果について情報発信を行った。</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<p>本年度の研究では、実践事例を通して生活を豊かにしていく力を育む授業づくりのために、有効な支援と学習評価の在り方、ティーム・ティーチングにおける支援の共有化について学習指導案への明記の仕方を工夫するなどして授業改善を行った。単元を通しての学習評価、多面的、分析的、計画的な学習評価を行うことにより、一人一人の児童・生徒の学習プロセスに着目しながら、その変容をとらえることができた。これらの取り組みや成果については、学会での発表の場をはじめ、他校の集まる研究会や学校視察において、情報提供することができた。多くの教職員とのやりとりの中で、本校の研究の取り組みに興味をもっていただくことにつながり、教職員同士の日常のやりとりも見られるようになった。</p> <p>今後、他校との共同の授業づくりや授業改善などを行うなどし</p>

	ながら、本校の研究をさらに発信していけるのではないかと考えている。
今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)	<p>本校の任務や本学の中期目標・中期計画の実現へ向け、大学との連携をさらに強め、引き続き本校の研究の様々な取り組みを全国、全道、地域へ発信していくことは必要なことと考える。そのためにも学会等への参加や発表、ふじのめ学級との研究交流等を推進し、継続させて、本校教職員の資質や能力の向上に結び付け、それを地域に還元することで、地域の教育力の向上に寄与していきたい。さらに、道内の研修を臨む地域において、特別支援学校や特別支援学級担当者の専門性向上に向け、本校の研究成果を踏まえた「児童生徒理解」及び「授業改善」等の研修や相互研究に発展する可能性は大いにあると考える。</p> <p>本校で実施する授業公開や公開研究協議会を地域に公開するとともに、教育実践内容の拡がりにさらに取り組んでいきたい。</p>
事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)	<p>函館新聞及び北海道通信に公開研究協議会について掲載される。</p> <p>その他、本校ホームページ上に、研究活動において研究の外部発表への取り組みと、入試情報にける出願状況、活動の様子等において随時更新掲載。</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。